

地盤調査の方法

- 1) 建物の「**地盤調査報告書**」を入手して下さい。
柱状図だけを下さる方がいますが、抜粋ではなく必ず1冊全部が必要です。設計に必要な定数や液状化の判断などがあちこちに書いてあるためです。
また、地盤調査報告書があっても、地層に勾配がついている場合や、工作物を立てる位置と調査位置が離れている場合など、再度の地盤調査が必要な場合があります。
- 2) スーパーやSCなどのような平屋か2階建て程度では地盤調査をしない場合もあります。建物の高さに比べて建物の巾が広いので、基礎に大きな力がかからないためです。この場合、残念ながら地盤調査報告書はないかもしれません。
- 3) 建物の「**構造計算書**」を借りてみる方法もあります。
構造計算書の中には基礎の計算をしている部分があります。そこに地耐力や近隣の地盤資料が載っているかもしれません。
- 4) 弊社で**近隣の地盤調査報告書**を手配できます(無料)。
今年から、全国で地盤調査を手がける上場企業のご協力により、近隣データの提供を受けられるようになりました。
(一部、近隣データがない場合があります。また、皆様からは費用はいただきませんが近隣データは地盤調査会社の財産ですので皆様にはさし上げられません)。
これにより、見積もりの段階では自費での地盤調査が不要となり、受注してから比較的簡易な地盤調査(全自動式SS電子認証つき)をすればいいようになりました。皆様のリスクが多いに減りました。
- 5) 地盤調査の種類と基礎の形式の関係

バージョンアップ!

	載荷試験 1	全自動SS電子 認証つき 2	標準貫入試験 (ホーリング)
特 徴	浅い地盤向き	誤差多い	万能
独立フチク基礎に向いているか			
杭に向いているか	×		
地層の違いがわかるか	(不要)		
N値がわかるか	(不要)		
地下水位がわかるか	×		
液状化の判定ができるか	×	×	
価 格	20万円	3~5万円	20~30万円

1【**載荷試験**】は地盤に直接、重量をかけてその耐力を測るので、地層の違いやN値などは不要です。

2【**スウェーデン式サウンディング=SS**】

- 重しを載せた十字のハンドルを回しながら地下に挿入して、その回転数で地盤の硬軟をはかる簡易な方法です。誤差が多く、また個人差も出ます。また、基礎の各種の公式では砂と粘土では違う式を使うのですが、SSでは砂と粘土の区別もハッキリとは区別が付きません。
- 手動式と自動式があります。
- 以上のような欠点があるのですが、役所は認めてくれます。

【**全自動スウェーデン式サウンディング電子認証つき**】

安価だが一般のSSに比べて比較的精度が高い方法です。全国ネットの上場企業が特許をもって展開しています。弊社としてはSSでは、これのみを採用しています。しかも、同時に提供される近隣データなどで信頼性を補強しています。

